

松平家史料展示室企画展 『越前の画人たち』

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成30年5月23日(水)～7月17日(火)
- 休館日 6月4日(月)・7月2日(月)

江戸時代は、江戸幕府の奥絵師を勤めた狩野派を筆頭に、様々な画派が誕生し、多くの絵師が活躍しました。福井藩においても、越前狩野家が代々御用を勤めましたが、江戸時代の中頃には「墨色薄く只弱々と相見一向見る気も無之候」との批判を受けるなど、その活動は停滞していました。一方、古代から明治までの越前出身の人物についてまとめた『越前人物志』（福田源三郎著・明治43年刊）の「画人」の項には、絵を得意とした武士や町絵師たちが江戸時代後期以降に多く紹介されています。彼らの中には、江戸や関西の画人たちと交流して最新の画風を学ぶ者もあり、福井藩や寺院の御用も勤めたようです。企画展「越前の画人たち」では、館蔵品から江戸時代後期から明治期にかけて活躍した福井ゆかりの画人たちを紹介します。

おかべなんがく

岡部南嶽 享保18年～寛政12年（1733～1800）

福井藩家老職を勤める岡部主貞の嫡男として生れる。名は貞起。号は南嶽。内記、右膳、後に左膳と称する。明和6年(1769)家老職となる。学問を好み、書画を得意とし、墨竹を専ら描いた。

いちかわとくぎょう

市川徳行 ?～天保6年(?～1835)

江戸時代後期の福井藩士。字は貫通、号は樵笛。金津代官受込役を勤める。絵画を好み、江戸で狩野圓陵に入門し、特に写生画を描いた。中でも鯉を得意とし、自邸で鯉を飼い、その生態をよく描いて「市川の鯉」として人気を得た。

まさのぶ

狩野匡信 ?～天保7年(?～1836)

江戸時代後期の町絵師。通称は主鈴。号は松栄、正栄。福井三ツ橋町桔梗屋茂左衛門の弟で、家は機具業（機織りの道具か）を商っていたらしい。幼い頃から絵を好み、京都へ出て朝廷の御用を勤める狩野正栄の弟子となった。その画才が認められ養子となってその家督を相続するが、離縁される。その後、長崎や佐賀で活動し、同地で没した。

みょうしょうじちくそう

明正寺竹叟 安永3年～天保11年（1774～1840）

江戸時代後期の僧。鯖江の明正寺の生れ。寂光院静巖とも称した。字は帰山、竹叟は号、姓は靈鞍。漢籍詩文書は父に学び、和歌を加茂季鷹（国学者・1754～1841）に学んだ。長崎では鶴亭竹石（黄檗宗僧・1722～85）と、江戸では狩野伊川院栄信（木挽町狩野家8代目当主）らと交流した。福井藩14代藩主松平斉承に召されて常に参殿したという。

はやせらんせん

早瀬蘭川 安永6年～天保8年（1777～1837）

江戸時代後期の原派の絵師。名は徳元、字は子孝、別号に松雲。神明町に生まれ、京都へ出て原在中（1750～1837）に入門する。古画に詳しく、美人画を得意とした。

いまだてしゅんざん

今立春山 ?～安政2年(?～1855)

江戸時代後期の福井藩士。通称五郎太夫、名は有慶。郡奉行、目付などを歴任した。その後江戸詰となり、14代藩主斉承一家の御用を勤め、江戸藩邸の普請にも携わった。画を好み、狩野興信の門に入った後、室町時代の絵師狩野元信の筆法を学んだという。



鳶に油揚げ・夕立図 高島夢蝶筆

福井市春嶽公記念文庫

たかばたけむちょう

高島夢蝶 生没年不詳

江戸時代後期の福井藩士。通称甚五左衛門。別号は悟則齋。福井藩居合の師範の家に生れる。諸芸に通じたが、中でも狂画で名を知られた。『越前国名蹟考』（井上翼章著、文化12年・1815）の挿絵の一部を手がけている。

かわじかてい

川地柯亭 安永9年～明治5年（1780～1872）

江戸時代後期の福井藩士。名は義裕、通称又兵衛。武術に優れた一方、漢学を福井藩の儒官で明道館教授の高野真齋に、絵を紀竹堂や谷文晁に学び、晩年は清画を好んだ。札奉行所、御纏頭御先物頭などを勤めて69歳で隠居すると、千福寺裕可に和歌を学び、本草家の妻木陸叟とも交流した。

はやせらいざん

早瀬来山 文化5年～明治23年（1808～1890）

江戸時代後期から明治期の絵師。名は鴻、字は子漸。父は同じく絵師の早瀬蘭川で、父に絵を学んだ後、京都の四条派絵師・松村景文、岡本豊彦に学んだ。



叢竹図 蒔田雲処筆 福井市春嶽公記念文庫

まぎたうんしよ

蒔田雲処 文化9年～慶応元年（1812～1865）

江戸時代後期の漢学者。旗本本多家の代官を務め、韻学の大家として知られた蒔田雁門の子。父をついで代官を勤めるが辞めて関西や江戸へ出て名士らと交流した後、足羽山で文雅の生活を送った。漢詩と山水画を得意とし、特に中年以降に左手のみで描いた墨竹画は評判を得た。

なるみによざん

成見如山 ?～明治17年 (?～1884)

江戸時代後期から明治期の福井藩士。通称七郎右衛門。毛矢町に生れる。盆栽を嗜み、絵を文人画家の谷口靄山たにぐちあいざんに学んで山水画を得意としたという。

しまだせつこく

島田雪谷 文政9年～明治17年（1826～1884）

江戸時代後期の福井藩士。名は広意、字は樗園、通称範左衛門、又は多司摩。武術に優れた一方、書画を学んだ。特に絵は福井藩士で絵に優れた岩尾雪峰や京都の絵師横山清暉に四条派を学ぶ一方、長州出身の南画家礪西涯にも学んだ。そのため、写生風の作品には「雪谷」と、南画風の作品には「青涯」と署名した。松平春嶽、茂昭の厚遇を受け江戸藩邸の障壁画を描き、廃藩後は画塾を開き多くの弟子を抱えたという。



富士山図 島田雪谷筆 当館蔵

【関連イベント】

ギャラリートーク

(展示解説)

平成30年5月26日(土)、6月6日(水)、
24日(日)、7月7日(土)
いずれも14:00～14:30

次回の企画展

企画展示室 夏季特別陳列「大集合!幕末福井の偉人たち」

平成30年7月20日(金)～8月26日(日)

松平家史料展示室 企画展「ばく分解して学ぶ 日本の武具」

平成30年7月20日(金)～9月19日(水)

松平家史料展示室 展示解説シート No.114
平成30年5月23日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489
担当 藤原千穂

印刷 宮本印刷